

昭和21〜36年頃の 黒い旧津山市庁舎と鶴山公園の桜

写真提供・粉川誠三さん（国分寺）

写真中央に写っている旧津山市庁舎（現津山郷土博物館）が黒く塗られているのは、戦時中、空襲などで標的にならないようにカムフラージュするためだったようです。撮影された時期は、鶴山公園に模造天守閣（通称「張りぼて天守閣」、昭和11年「産業振興大博覧会」の時に建設され、昭和20年8月に解体）がなく、桜が満開なので、昭和21年以降の春



現在の旧津山市庁舎と鶴山公園

このコーナーに掲載する懐かしい津山の写真を募集しています

問い合わせ先

〒708-0022津山市
山下92津山郷土博物館 ☎22-4567

だと思われます。また、空を大きく写していることから、撮影当日は抜けるような青空だったのかもかもしれません。当時、この黒い市庁舎を「カラス役所」と呼ぶ人もいたようです。

旧庁舎が明るい色になったのは昭和37年。同年開催された国民体育大会（津山市はサッカー・体操・バレーボールを開催）を機会に、明るくさわやかなクリームピンク色に塗り替えられました。

鶴山公園の津山城本丸の藤棚辺りには、花見客らしき人影が見えます。戦時色を濃く残す津山市庁舎を眼下に見ながら満開の桜を愛でる人々、何か平和の大切さを感じさせる一枚に思いませんか。

表紙について

桃の節句とお雛様

女の子の健やかな成長と幸せを願う桃の節句。この春、加茂町戸賀の宇佐美さん宅では四世代でひ孫の初節句を迎えます。大きいおばあちゃん、小さいおばあちゃん、お母さん、赤ちゃんへと、幸せの糸が紡がれていきます。

つ・ぶ・や・き

編集室



おかやま発達障害者支援センターで「身近で支援してくれている人がいてこそ、センターの力も発揮できる」との言葉を聞きました。家族が一番の支えだと思いますが、その家族も含めて、地域全体で支えていくことの大切さ。取材を通して感じることができました。（&）

「あの頃の津山」で紹介した黒い市庁舎。塗り替えられた時期を調べるため思い当たる人に取材を行うも決定打とはならず五里霧中。そんな時、同僚が広報つやま昭和37年12月号に「明るくなった市庁舎」という記事を発見！ 良き同僚と「広報つやま」にただただ感謝。（修）

わたしの卒業ソングといえば長渕剛の「乾杯」。友だちと離れることも、先生と別れることも、つらくてつらくて泣き続けた卒業式の最後に、先生が歌ってくれました。もう号泣というか嗚咽状態…。忘れられない一曲になりました。皆さんの卒業ソングは何ですか？（和）

編集・発行（毎月10日発行）

津山市総合企画部秘書広報室（市役所3階）〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
☎0868-32-2029 ☎0868-32-2152 Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>



広報つやまは、環境保護のため再生紙と大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクル（雑誌）にご協力ください

